

平成25年度 文書館評価

評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用、活用を図ります。

測定項目	過年度実績	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
1)登録者数	1,710	1,760	1,905	<p>収蔵資料検索システムのアクセス件数が平成24年度に初めて7万件を超える一方で、閲覧者数等は横ばい状態が続いています。ただし、展示や講座の閲覧・参加者数は増加しています。これは非来館型のサービスの充実が図られていることを示しています。</p> <p>今後さらなる来館利用者の増加を図るためには引き続き効果的な広報等によりイベントの周知を図るとともに、文書館の利用方法の周知や収蔵資料への関心を高めることが必要であると考えます。</p> <p>各項目とも増加させることは難しいものの、前年度比3%増を目標値としました。</p>	<p>引き続き、魅力ある展示、講座を設けるとともに、彩の国だよりをはじめ記者発表やミニコミ誌などに積極的に情報提供を行います。</p> <p>講座、研修会参加者に対して、文書館利用申請書を配布するなど閲覧者以外の方や県職員にも積極的に文書館をPRしていきます。</p>	<p>登録者数以外の項目については、いずれの項目も目標を達成できませんでした。参考項目である利用者数は目標値を下回ったものの、前年度実績を上回っています。レファレンス及び閲覧者数は前年度実績との比較ではほぼ横ばい状態です。資料検索システムのアクセス件数は前年度実績を3%程度下回っています。</p> <p>資料の利用や検索については社会情勢や自治体史の編纂事業などによる影響が大きい部分があり、一概に利活用が後退しているとは言えないものの、引き続き館としても資料の利活用の促進について努力する必要があります。</p>	<p>広報した内容が掲載される機会・回数を増やすため、資料提供先を増やしたり、広報の内容に沿った提供先を特化したりという工夫を図っていきます。</p> <p>ホームページの内容を充実することで、館の利用につながるよう工夫を図っていきます。</p>	108.2%
2)閲覧者数	4,046	4,170	4,006					96.1%
3)利用点数	39,470	40,650	34,606					85.1%
4)レファレンス	1,295	1,330	1,293					97.2%
5)検索システムアクセス件数	79,248	81,630	77,382					94.8%
参考)利用者	17,880	18,416	18,322					99.5%

評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
行政文書の公開点数	146,474	150,274	152,331	<p>行政文書には、永年(11年以上)保存文書と10年、5年などの保存年限が限られている文書があります。このうち前者は原則として完結後10年を経過した時点で文書館に収蔵されます。また、後者のうち、歴史的・文化的価値の認められる文書は廃棄決定後に文書館に移管されます。その後、個人情報等に配慮して公開するための整備を進めます。</p> <p>新たに収蔵する文書の整理や既収蔵文書の見直しを行い、3,800点の新規公開を目標とします。</p>	<p>文書作成から30年、50年など、定期的に制限を見直し、公開の促進を図ります。</p> <p>研修や庁内広報等により県職員の公文書に対する意識啓発を図ります。</p>	<p>行政文書の公開点数は、5,857点の増となりました。</p> <p>完結後10年を経過した文書及び歴史的資料の移管手続きが順調に進んだこと並びに完結後30年又は50年後に公開を予定して収集した歴史的資料に係る利用協議も予定以上に円滑に進んだことによります。</p>	<p>次年度以降も、完結後10年を経過した文書及び歴史的資料の移管手続きを粛々と行い、完結後30年又は50年後に公開を予定して収集した歴史的資料に係る利用協議も円滑に進めていきます。</p>	101.4%

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
古文書の公開点数	392,437	400,937	401,417	<p>古文書は未整理の寄贈・寄託文書に番号を付し、文書目録を作成し、文書目録及びホームページで公開しています。24年度は、収蔵文書目録第52集「戸谷家文書」の刊行による公開を行いました。</p> <p>未整理分古文書の整理と目録公開(8500点)を図ります。</p>	<p>整理(目録)計画を見直し、計画的な整理を推進します。</p> <p>次年度目録刊行予定文書の整理を並行して行い、円滑な整理を進めます。</p>	<p>目標値を予定通り達成することができました。</p>	<p>引き続き、未整理分については公開に向けて整理作業を効率的に進めていきます。</p>	100.1%
報道写真の公開点数	31,895	32,895	51,915	<p>埼玉新聞社から寄贈を受けた埼玉新聞社撮影戦後報道写真は、順次整理し、現在昭和22年から36年1月までの31,895点を公開しています。</p> <p>平成25年度は、昭和36年2月～37年12月分1000点の公開を目指します。</p>	<p>整理公開計画を見直し、計画的な整理公開を推進します。</p>	<p>目標値の設定通りに公開が進められました。</p>	<p>引き続き、未整理分については公開に向けて整理作業を効率的に進めていきます。</p>	157.8%

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
地図資料の公開点数	73,060	74,760	73,616	県作成地図及び市町村作成地図については、毎年寄贈依頼を出して収集し、整理・公開を行っています。また、埼玉県に関する国土地理院作成の地図等についても収集し、整理・公開を行っています。 整理公開点数を累計74,760点とします。	県作成地図は、紙地図・電子地図の発行状況を把握し、収集資料の確保に努めます。 市町村の協力を得て、市町村作成地図の収集に努めます。 スペースの確保に努めます。	年度当初の事業計画に入っていないかった収蔵庫内環境整備など不測の事案が生じ、予算も含めてその対応に追われた結果、整理公開点数は556点の増に留まりました。	次年度以降も、県作成地図及び市町村作成地図については、引き続き寄贈依頼を出して収集し、整理・公開を行っていきます。 また、関係各所にも個別に依頼し、埼玉県に関する地図の収集を進めていきます。	98.5%

評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

測定項目	過年度実績	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
1) 史料叢書の刊行	第16巻 栗橋関所史料五	埼玉県史料叢書12中世新出重要史料二	埼玉県史料叢書12中世新出重要史料二	刊行計画に基づき『埼玉県史料叢書』の刊行を進めています。 埼玉県史料叢書12「中世新出重要史料二」を刊行します。	編集会議、編集員と綿密な連絡調整を行い、刊行に向けたスケジュールの調整を行います。 次年度以降の刊行準備を行います。	目標値を予定通り達成することができました。	26年度も継続して実施します。	100.0%
2) 県史編さん資料(写真資料等)の公開点数 (公開累積数で表示)	11,761	13,761	13,761	県史編さん資料の整理・公開は、写真資料が主体ですが、平成21年度は拓本資料の公開点数を含みます。 県史編さん資料(写真資料等)は、2,000点以上を整理・公開し、累計13,000点以上とします。				100.0%

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

測定項目	過年度実績	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
	H24	H25						
1)古文書 : 修復(枚)	200	150	134	<p>例年、劣化の激しく利用ができない文書150枚前後の修復をします。 古文書の修復・複写本の作成・古文書のマイクロ化は前年とほぼ同じ目標値とします。 埼玉新聞社撮影戦後報道写真のネガフィルムの保全のためデジタル化を計画的に実施します。 前年度と同じ14万点のデジタル化を目標とします。</p>	<p>古文書の修復をすることにより閲覧できる状態にし、利用者の利便性を図ります。 埼玉新聞社撮影戦後報道写真のネガフィルムの保全と整理利用のためデジタル化を図ります。</p>	<p>25年度は、状物ではなく冊物の修復が主体であったため、目標数値に届きませんでした。</p>	<p>引き続き、史料の劣化状況等を確認しながら確実に修復を進めていきます。</p>	89.3%
2)古文書 : 報道写真デジタル化 (点)	144,225	140,000	140,000					100.0%
3)行政文書 : 重要文化財指定文書の複製化 (冊) (コマ)	124 (57,191コマ)	216 (99,100コマ)	235 (99,638コマ)	<p>重要文化財に指定されている明治から昭和戦前期11,259点について、マイクロフィルム撮影による複製化を計画的に実施しています。 明治期及び昭和戦中期の行政文書が終了し、現在は大正・昭和戦前期分について計画的に複製化を進めています。 前年度の契約実績を勘案し、撮影コマ数、原本簿冊ともに増加を目指します。</p>	<p>電子データに変換し、閲覧利用に供することにより、原本の利用を制限し、保存と利用の調整を図ります。</p>	<p>指名競争入札を行った結果、契約単価の削減に成功しました。そのため撮影コマ数、原本簿冊とも余裕のある複製化が実現し、実績増につながりました。</p>	<p>次年度以降も肅々と指名競争入札を行い、計画に沿った複製化を推進していきます。</p>	108.8% (100.5%)

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します。

測定項目		過年度実績	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
		H24	H25						
1) 講座、普及事業	回数	32	32	32	<p>古文書講座入門編、初級編、中級編、古文書解読講習会、地図教室、歴史講座(久喜市と共催)、文書資料取扱講習会、市民大学講座、県政出前講座、子ども体験教室、子ども地図教室、いろは教室、県民の日アーカイブズ、計32回の普及事業を開催しました。昨年度並の目標値としました。</p> <p>教員対象研修会、文書館利用体験講座のほか、職場体験学習(中学生)、学習支援(受入、出前授業)、大学ゼミ、博物館実習を受け入れました。昨年度並みの目標値としました。</p> <p>古文書補修、子ども事業のボランティアを受け入れました。実施回数は昨年度と同じでしたが、延べ人数については、ボランティア登録者が少なくなったため、例年度並の目標値としました。</p>	<p>彩の国だよりをはじめ、催物案内、ちらし等への掲載並びに広報範囲を拡大するなど積極的に広報活動を行います。</p> <p>過年度のアンケート結果を生かした県民のニーズにあった普及・連携事業を開催します。</p> <p>教員向けの研修会や学校への講師派遣活動を積極的に行い、児童生徒の学力向上に努めます。また、大学生等の受け入れ機会を増やし、学校連携の強化に努めます。</p> <p>ボランティアの受入を積極的に行い、充実した事業に努めます。</p>	歴史講座については、共催者である寄居町鉢形城歴史館の講座室が40名定員であったため、昨年よりも参加者総数が減少しています。	26年度も継続して実施します。	100.0%
	人数	1,804	1,800	1,473					
2) 学校との連携事業	回数	33	33	40			25年度は、新たに高校教育指導課と教育課程改善委員会において、文書館史料による指導案作成に取り組みました。	26年度も継続して実施します。	121.2%
	人数	904	900	803					
3) ボランティア活動 古文書補修	回数	40	40	40			古文書修復ボランティアについては現状を維持します。	26年度も継続して実施します。	100.0%
	延人数	350	350	376					
3) ボランティア活動 子ども事業	回数	11	11	12			子供事業のボランティアについては微増でした。	26年度も継続して実施します。	109.1%
	延人数	66	40	48					

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらおう導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

測定項目		過年度実績	目標値	実績	現状分析及び 目標値設定	施策	達成状況の分析	次年度以降の改善点	達成率
		H24	H25						
年間観覧者数(人)		8,520	8,600	10,135	<p>コーナー展示は、年4回行います。大河ドラマに関連したコーナー展示を昨年度末から開催したこと、年度末に中世文書の展示を行うことから目標値を若干高めに設定しました。</p> <p>1日平均観覧者数30人を目標値としました。</p>	<p>文書館の貴重な広報機会として、報道機関に積極的に広報します。</p> <p>HP以外での広報の実施を行います。</p> <p>展示にリンクしたイベントを開催します。</p>	<p>観覧者数の増大は1月～2月にかけて開催した外務省外交史料館との共催展示「地図アラカルト」の反響が大きく、マスコミ等でも大きく取り上げられたことが大きいと考えられます。</p>	<p>今後も当館の収蔵文書を中心に話題性の高い展示を企画します。</p>	117.8%